

躍動感ある攻めのプレーを

アメフト部 飯塚佑馬



リーグ戦(2部)を制し、さらには入れ替え戦で一橋大を倒してBIG8への最短復帰を果たした専大アメフト部(12面参照)。今季のチームを「アメフトを心から楽しんでやれるようになつた」と表現するのは主将の飯塚佑馬(法4・岸根高)だ。

チームで一番成長した点を聞くと「思い切った攻めを」と答えた。そこには試合を想定した練習を増やしたという背景があった。実戦が少なくという課題を抱えていたため、試合形式の練習を週6回実施し、プレーヤーとしての感覚を磨いた。

さらに「ミスや失敗を恐れない雰囲気できた」とも大きいという。これまでは勝利を求めあまり、ミス責めしてしまう雰囲気があった。飯塚主将は「これでは失敗したらどうしよう、と思いつつプレーしてしまつ」と考え、チームの雰囲気を変えることに努めた。後輩たちが伸び伸びとプレーできるように、率先して話しかけやすい雰囲気を作ったという。

「チームの明るい雰囲気はそのまま、今以上に躍動感ある攻めのプレーをしてほしい。チームをまとめることは決して簡単なことではないので、最上級生を中心に全員で支え合って、TOP8への昇格を目指してほしいですね」と語った。

目標に向かい一丸となって

ラグビー部 松土治樹



今シーズンのリーグ戦(2部)は快進撃を続け、全勝優勝で入れ替え戦に進出。その勢いのまま関東学院大との熱戦を制した(12月号12面参照)。3年ぶりとなる1部復帰を果たしたラグビー部の松土治樹主将(経済4・日川高)に話を聞いた。

選手への重なる2016シーズン。その反省を踏まえて今シーズンは外のプレーができるようになった」と答えた。そこには試合を想定した練習を増やしたという背景があった。実戦が少なくという課題を抱えていたため、試合形式の練習を週6回実施し、プレーヤーとしての感覚を磨いた。

さらに「ミスや失敗を恐れない雰囲気できた」とも大きいという。これまでは勝利を求めあまり、ミス責めしてしまう雰囲気があった。飯塚主将は「これでは失敗したらどうしよう、と思いつつプレーしてしまつ」と考え、チームの雰囲気を変えることに努めた。後輩たちが伸び伸びとプレーできるように、率先して話しかけやすい雰囲気を作ったという。

「チームの明るい雰囲気はそのまま、今以上に躍動感ある攻めのプレーをしてほしい。チームをまとめることは決して簡単なことではないので、最上級生を中心に全員で支え合って、TOP8への昇格を目指してほしいですね」と語った。

1部復帰の両生海へ聞く

専大スポーツ編集長 飛田翼・文3

部からウエートトレーニングコーチを招へいし、週4回のトレーニングを積んだ。特に重視したのは下半身の強化。そのトレーニングは入れ替え戦直前まで続いた。その結果、フィジカル面が大幅に改善され、復帰を決めた入れ替え戦でも身体能力で相手を圧倒する結果となった。

「シーズンを終えて達成感にあふれている」と語る松土主将。選手たちを一つにまとめあげるために、プレーでも先頭に立ってチームを引っ張った。

主将として大事にしていることを聞くと、「自分が誰よりも、体を張ること」と答えてくれた。ポジションはフランカー。ディフェ

初戦の立教大戦は生駒虹樹(法2・武相高)、笹川健太(法1・日光明峰高)がそれぞれ2得点を挙げた活躍をみせ、8-0で圧勝。しかし、続く2回戦で東洋大に敗れ、ベスト8入りはならなかった。

東洋大は関東大学リーグ戦のグループAに所属し、グループB所属の専大にとっては格上にあたる。福島健一主将(経済4・北海高)も「東洋大に勝つことが目標」と意気込んでいた。しかし早い時間に先制を許すと、その後も点差を広げられ、鈴木吉斗(法4・北海道栄高)と生駒がゴールを決めた。しかし早い時間に先制を許すと、その後も点差を広げられ、鈴木吉斗(法4・北海道栄高)と生駒がゴールを決めた。

初出場の長谷川花の2区を力走

関東学連チーム

東京箱根間往復大学駅伝競走11月2、3日、東京・大手町3ノ湖

関東学連合チームの一員として自身初の箱根駅伝に出場した長谷川花は、2区を力走し、チームの勝利に貢献した。

中学生を指導

バドミントン部

体育会地域貢献活動「ONEDAYTEAMMATE」の一環として、川崎市多摩区・麻生区の中学生を対象としたバドミントンの強化練習会が12月23日、生田キャンパスの第一体育館で行われた。バドミントン部の部員32人が指導にあたり、約150人の中学生が参加した。

女子フルール 菊池5位

全日本フencing(商3・翔陽高)に選出された菊池は、総当たり戦の予選プールを6戦全勝で突破した。勝ち残った64人によるトーナメントも順調に勝ち進んだが、準々決勝で辻選手(岐阜卓クラブ)に13-15で敗れ、悔しい結果に終わった。

2016-17シーズンは国際フencing連盟のジュニア女子フルール年間ランキングで1位に輝いた菊池。17-18シーズンから本格的にシニアクラスに参戦し、国内外で経験を積んでいる。今後の活躍に期待だ。

2回戦敗退

ベスト8逃す

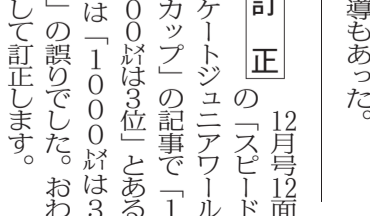
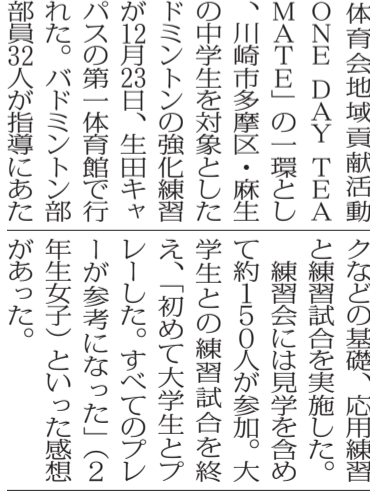
日本学生氷上競技選手権アイスホッケー部門12月25、29日、八戸市・テクノアイスパーク八戸

東洋大は関東大学リーグ戦のグループAに所属し、グループB所属の専大にとっては格上にあたる。福島健一主将(経済4・北海高)も「東洋大に勝つことが目標」と意気込んでいた。しかし早い時間に先制を許すと、その後も点差を広げられ、鈴木吉斗(法4・北海道栄高)と生駒がゴールを決めた。

伊勢原寮の学生200人が清掃活動

伊勢原体育寮(神奈川県伊勢原市)に住む学生約200人が12月16日、小田急伊勢原駅までの幹線道路や寮周辺の清掃活動を行った。写真：ラグビー部、野球部、テニス部、馬術部の男子

伊勢原寮の学生200人が12月16日、小田急伊勢原駅までの幹線道路や寮周辺の清掃活動を行った。写真：ラグビー部、野球部、テニス部、馬術部の男子



東洋大戦で②鈴木へのゴールに喜ぶ選手たち

指導する部員

生田キャンパスで行われたセミナー

訂正 12月号12面の「スピードドカップ」の記事で「1500位は3位」とあるのは「1000位は3位」の誤りでした。おわびして訂正します。